2022 年度（第 46 回）産業遺産学会総会にあたり

今年も豊雨のころを迎えましたが、みなさまにはますますご健勝のこととお喜び申しあげます。平素は当会の運営にご理解とご高配をいただきありがとうございます。

2021 年度（第 45 回）に引き続き、2022 年度（第 46 回）産業遺産学会総会も新型コロナウィルス感染を懸念して書面決議といたします。ご理解とご協力がいただけましたら幸甚です。

つきましては以下 6 議案書をご確認いただき、同封の返信ハガキの賛否欄にご記入、署名、捺印のうえ、7 月 3 日（日）までにご返信くださいますようお願いいたします。

2022 年 6 月 17 日

会長　横山悦生

2022 年度（第 46 回）産業遺産学会総会資料目次

第 1 号議案：2021 年度事業報告（2021 年 4 月～2022 年 3 月）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第 2 号議案：2021 収支決算報告および会計監査報告（2021 年 4 月～2022 年 3 月）・・・・・ 8
第 3 号議案：2022 度事業計画案（2022 年 4 月～2023 年 3 月）・・・・・・・・・・・・・・・・14
第 4 号議案：2022 年度予算案（2022 年 4 月～2023 年 3 月）・・・・・・・・・・・・・・・・19
第 5 号議案：学会規定等の制定案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第 6 号議案：学会誌名称変更案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
産業遺産学会評議員会規定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
産業遺産学会推薦産業遺産規定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
2022 年度（第 46 回）産業遺産学会総会研究発表会のおしらせ・・・・・・・・・・・・・・・25
2022 年度全国大会（久喜鉱山）のおしらせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
佐渡産業遺産現地調査会のおしらせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

第 1 号議案：2021 年度事業報告（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

総務

■2021 年度（第 45 回）総会

新型コロナウィルス感染拡大のため書面決議とした。

■2021 年度における理事の異動等

異動　秋葉　健　企画理事から WEB・広報理事に

新任　岡崎直司　企画理事

新任　伊東　孝　特任理事（企画）

退任　大島一朗　財務・企画理事を退任

退任　馬渕浩一　母堂の介護のため編集理事を退任

■規定の大幅改訂

産業遺産学会規約

業務規定

財務経理規定

会費規定

文書規定

外部委託管理規定

会員名簿管理規定

出張旅費規定

個人情報保護規定

■後援許諾

申請者：公益財団法人山陽放送学術文化・スポーツ振興財団

催事名：近代岡山「殖産に挑んだ人々」

形　式：シンポジウム

期　間：2021 年 8 月 20 日～2022 年 2 月 17 日までの 10 回

許　諾：2021 年 4 月 20 日

■共催許諾

申請者：一般社団法人日本考古学協会

催事名：シンポジウム「高輪築堤を考える」

形　式：シンポジウム

会　期：2022 年 4 月 16 日

許　諾：2022 年 2 月 28 日

企画

■2021 年度全国大会（倉敷市）

新型コロナウィルス感染拡大のため中止した。

■2021 年度総会基調講演・研究発表会

新型コロナウィルス感染拡大のため 6 月 26 日（土）オンラインで開催した。

基調講演（講演 60 分、質疑応答・場面転換 15 分）

「臨海工業地帯の歴史地理－神戸と尼崎の工業地帯形成史比較－」

（辻川敦氏／前・尼崎市立地域研究史料館館長）

「倉敷における近代建築の保存活用について」

（上田恭嗣／ノートルダム清心女子大学名誉教授

研究発表会（発表 20 分、質疑応答・場面転換 10 分）

研究発表「鉱滓煉瓦の日本国内における製造方法とその変遷－九州大学大学文書館所蔵・九州帝国大学工学部応用化学科学生実習報告より－」（市原猛志）

研究発表「人形峠のウラン鉱とウラン探鉱坑道の歴史的考察」（日野田晋吾）

産業遺産紹介「地方における放送局の建築的特徴－今も残る岡山放送局旧局舎を例として－」（村上裕康）

産業遺産紹介「大井川鉄道井川線沿線の産業遺産」（寺沢安正）

産業遺産紹介「旧三越大阪店の鋼材に再利用された双頭レール」（鈴木敬二）

■2021 年度全国大会（佐渡）

・産業遺産学会 2021 年度全国大会（佐渡）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演会と研究発表を Zoom によるオンライン開催した。

・初の試みとして、予稿集のオンライン配信を行った。

講演会　09:30～12:15

新型コロナウィルス感染拡大のため 10 月 16 日（土）オンラインで開催した。

「佐渡金銀山絵巻などから見る江戸時代の製錬 精錬 技術」

（鈴木一義氏／国立科学博物館産業技術史資料情報センター長）

「近代佐渡鉱山の変遷と産業遺産」

（宇佐美亮氏／佐渡市世界遺産推進課世界遺産保存係長）

研究発表会　10:00～16:00

新型コロナウィルス感染拡大のため 11 月 27 日（土）オンラインで開催した。

「旧佐渡鉱山の近代化過程における人造石構造物の役割」（天野武弘）

「世界遺産登録とその後－富岡製糸場と絹産業遺産群の七年－」（松浦利隆）

「世界遺産を巡る観光客の動向とニーズに関する考察～ウズベキスタンにおける旅行客動向調査を事例に～」（秋葉健・Heechun Kang・宍戸麻里子）

「神岡鉱山での電力事業の展開」（入江隆亮）

「北海道土木開発史における、札幌農学校工学科第 1 期生岡崎文吉の人と技術」(山田大隆)

「川崎市域における交通関連の産業遺産」（中川洋）

「広島におけるアス煉瓦の使用実態に関する考察－名勝平和記念公園内遺跡レストハウス地点を事例にして－」（井畝良太）

「戦間期のオフィスビルの部材保存－東京中心部の事例を中心に－」（阪東峻一）

「戦後の鉱滓煉瓦と鉱滓煉瓦と混同のおそれのある煉瓦様素材に関する研究」（市原猛志・尾崎徹也）

「産業遺産の現地調査におけるドローンの活用について」（柘植芳之・大野泰伸）

「産業遺産における活用と用途転用－文化財の活用に関するアンケート調査結果－」（中村舞・中山俊介）

「都市遺産公園にみる産業遺産の保存と活用についての考察－イギリス、マンチェスターのキャッスルフィールド都市遺産公園の事例研究－」（石田正治）

「トヨタ産業技術記念館における煉瓦壁の補修・保存活動と課題」（成田年秀）

■保存活動（多摩川スピードウェイ観客席）

2021年８月に多摩川スピードウェイ観客席の保存要望書を国交省京浜河川事務所に提出したが、９月に予定通り工事をおこなう旨の回答があった。

当初は多摩川スピードウェイ観客席の記念銘盤の保存も危ぶまれたが、別途「多摩川スピードウェイの会」の働きかけにより、記念銘盤の保存のほんの一部の座席保存、および新規銘盤の設置が決まった。

工事は11月着工、2022年３月竣工の予定であったが、工事は延び、５月ないし６月に竣工の予定である。

■第２回セルロイド産業文化基金

2021 年度は応募申請がなかったため、基金の採択なしである。会員および関連機関へのＰＲなどの周知が必要と考える。

■受託研究

研究名：2020 年度「一輪の綿花から始まる倉敷物語」調査研究事業

2018 年度以降継続４年目、製版データの提出で業務完了

報告書：岡山紡績所の誕生まで（小西伸彦）

下村紡績所及び玉島紡績所の産業遺産（玉川寛治）

下村紡績所覚書（玉川寛治）

空前絶後の歴史をもつ下村紡所の覚書～下村紡績所の独特な発展～　（玉川寛治）

倉紡の生産システムと産業遺産（中野茂夫）

企業の生産システムが都市を形づける（清水憲一）

倉敷紡績と地域社会（清水憲一）

倉敷市児島地区における繊維産業発展の概要（唐澤克樹）

学生による繊維製品（唐澤克樹、井上実子、渡部菜々子、雑賀優衣、木之下樹）

倉敷の帆布（天野武弘）

荻田撚糸に関する調査報告（小西伸彦）

倉敷脱脂綿とそれを生み出す機械（小西伸彦）

有隣荘大原孫三郎邸の誕生とその建築意匠（上田恭嗣）

大原美術館の建設経緯について（上田恭嗣）
建築家薬師寺主計による倉敷絹織株式会社本社工場の人道的施設計画について
—女子寄宿舎・休憩所等からの考察—（上田恭嗣）
昭和倉敷の、芸術と民芸（吉原睦）
森田酒造の圧搾機の現状と稼働遺産としての意義（天野武弘）
福田新田の石造樋門（樋口輝久）
霞橋（樋口輝久）
瀬戸大橋の意義と価値を考える（伊東孝）
倉敷市街地の日本遺産構成文化財と近代建築（小西伸彦）
旧倉敷市庁舎（倉敷市立美術館）の登録有形文化財申請に関する所見等（小西伸彦）
高江炭坑の玉垣をめぐって（小西伸彦）

編集

■『産業考古学』159 号

新型コロナ・ウィルス禍その他の事由により遅れていた会誌『産業考古学』159 号の編集作業は、2022 年 6 月中の刊行をめざした。今回は「日本の鉱山遺産の今－世界遺産登録をめざす佐渡に寄せて－」と題する特集を設けた。［論文］1 篇、［特集］計 5 篇（序言と論文 4）、［研究ノート］1 篇、［調査報告］1 篇、［書評］2 件、［短信］4 件を掲載し、本文 94 頁とした。

■編集と刊行

○会報『ニューズレター』第 22～23 号を 2021 年 7 月、10 月に刊行したが、第 24 号は諸般の事情で 2022 年度の刊行とした。

○予稿集『2021 年度（第 45 回）産業遺産学会総会研究発表会予稿集』と『産業遺産学会 2021 年度全国大会（佐渡）研究発表会予稿集』を刊行した。

■オンライン公開学習会

当会の趣旨に沿うもので、話題となった／なりそうな出版物が登場すれば、それを俎上に載せた「オンライン公開学習会」を適宜開催することとし、今期、試みに、当会元会長で特任理事の伊東孝氏の新著『「近代化遺産」の誕生と展開–新しい文化財保護のために–』（岩波書店 2020 年）を取り上げ、4 回にわけてオンライン形式で学習会を実施した。1 回約 1 時間半、まず著者から該当箇所のポイントの説明をいただき、コメンテーターからコメントや質問を附すかたちで進めた。参加者数はつぎのとおりであった。2021 年 10 月 11 日（月）30 名、11 月 15 日（月）21 名、2022 年 1 月 10 日（月）13 名、3 月 28 日（月）12 名。

組織

■2021 年度期首に方針として以下の 3 点を挙げた。

（1）評議員の充実
（2）評議員会の再構築（総会実施等）

（３）諸課題

① 「評議員規定」整備

② 各評議員間の情報発信・共有強化

③ 評議員総会時の見学会等同時開催

（１）は１名（岩井章真会員、愛知県）を増員した。

（２）はコロナ禍等もあり、取り組み途上である。

（３）①は 2022 年度総会で提案する予定である。

②は広報部門から定期的に「産業遺産学会からのご案内」を発信するようになり、各会員間の情報共有を強化できたが、各評議員間に限定した情報共有は取り組み途上である。

③はコロナ禍等もあり、取り組み途上である。

ＷＥＢ・広報

■メールマガジン（広報理事　担当：橋本英樹）

2021年９月２日より、産業遺産学会のメールマガジンの配信を開始した。

配信開始に先立ち、2021年６月より配信のためのリスト作成をおよそ２ヶ月がかりで行った。また、会員の皆様にはリスト作成のために「現況届」をオンラインにてご提出頂くようご協力をお願いした。

メールマガジンは産業遺産学会で契約しているサーバのメーリングリストの機能を送信専用に設定することで実現している。

これまでのメルマガの配信

2021年９月２日（初回）、３日、４日、７日、８日、11日、15日、17日、21日、26日、30日

2021年10月３日、10日、13日、20日、26日

2021年11月５日、14日、22日

2021年12月５日、9日、22日

2022年１月４日、11日、12日、18日

2022年２月７日、11日

2022年３月３日、27日

配信対象者

産業遺産学会会員のみ。

配信は配信する必要のある情報があるタイミングに不定期で配信しており、ニュースレターと学会誌を補完する役割を果たしている。

配信は、配信ミスの発生ができるだけ少なくなるよう、その仕組みを構築しており、今後、配信担当となる広報理事が交代した際にも問題無く担当者の引き継ぎができるようにしている。

■ウェブサイト（http://sangyo-koukogaku.net/）については、2021年度は随時更新（通算21回、延べ58頁）を行った。トップ頁は、保存要望書など学会からのメッセージ発信を中心に更新した。感染症拡大予防の観点からイベントの中止・変更等があったため、イベント活動配信が少

なくなった。また、後任者の技術レベルに関わらず、ホームページ更新の引継ぎが今後できるように、HTMLの技術面での簡素化も進めた。

■2021年度も対面での理事会開催が引き続き困難であったことから、理事会向け電子掲示板の継続運用を行った。アドレス非公開だが、スパム投稿等のセキュリティ上の懸念が認められるため、今後引き継ぎも含め代替案を検討したい。

■Googleフォームを導入し、現況届やイベント申し込みに活用した。

■本学会でZoom有料プランを契約し、全国大会や理事会等に活用した。

■国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP）に本学会ホームページの登録を行った。今後 WARP に本学会のホームページが定期的に記録・保存される。

国際

■2020 年に引き続き国際会議やイベント等の感染症拡大防止のため、中止またはオンライン開催が相次いだ。

■ICOMOS の国際学術委員会（ISC）に「産業遺産（IH）」が加わり、日本 ICOMOS 国内委員会第 12 小委員会より、伊東孝特任理事、松浦、種田両会員が参画。

■2021 年 6 月、ANIH（アジア産業遺産ネットワーク）の Sixth Issue bulletin が刊行、国際担当理事（市原）が対応、執筆。

第 2 号議案：2021 収支決算報告および会計監査報告（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

産業遺産学会　2021年度一般会計決算　（単位：円）

〔収入〕	予算	決算案	差額
年会費	1,380,000	1,564,000	184,000
前受け年会費	324,000	324,000	0
学会誌等売上	35,000	54,000	19,000
受託活動収入	0	0	0
会費編集諸収入[掲載料]	185,000	12,000	△ 173,000
雑収入	112	279,007	278,895
繰越金	668,888	669,768	880
収入合計	2,593,000	2,902,775	309,775

〔支出〕	予算	決算案	差額
会誌編集・印刷費	600,000	13,860	586,140
会誌発送費	100,000	36,634	63,366
総会関係費	150,000	8,080	141,920
全国大会関係費	150,000	106,309	43,691
ホームページ維持費	60,000	16,580	43,420
学会活動補助金	200,000	25,920	174,080
事務費	150,000	232,259	△ 82,259
事務委託費	550,000	550,000	0
国際学会費	0	0	0
事務所移転積立	0	0	0
国際会議積立	0	0	0
選挙管理費	0	0	0
特別会計特別費へ返済	64,000	64,000	0
予備費	569,000	405,448	163,552
次年度繰越金	0	1,443,685	△ 1,443,685
支出合計	2,593,000	2,902,775	△ 309,775

2022年度通常口座総資産		1,443,685

	郵振口座	三菱UFJ口座	小口現金	各口座の合計額
前年度からの繰り越し額	2, 460, 337	599, 272	680	**3, 060, 289**
本年度中の収入額	1, 388, 600	520, 407	0	1, 909, 007
本年度中の支出額	1, 760	1, 435, 237	22, 093	1, 459, 090
本年度中の振替入金	0	1, 000, 680	69, 816	1, 070, 496
本年度中の振替出金	3, 136, 337	0	680	3, 137, 017
期末の残高（計算値）	710, 840	685, 122	47, 723	**1, 443, 685**

※産業遺産学会の会計は単式簿記（現金主義）であり、それに基づくと期首のUFJ口座は2,084,951円となります。
ただし、2021年度期首については前会計理事より下記の指示を受けて修正をしたため期首は599,272円となります。

日付・概要	入出金額	銀行残高		
2021/3/31　三菱UFJ銀行残高		2,084,951		
2021/4/16　郵便口座振替入金	2,112,337	4,197,288		
特別口座振替出金	△ 3,497,136	700,152		
振込手数料	△ 440	699,712		
前受納入の年会費	24,000	723,712		
特別会計への返済	△ 64,000	659,712		
2022/04/27　HP維持費	△ 60,000	599,712		
振込手数料	△ 440	599,272	←前担当理事指定の三菱UFJ銀行期首残高	

産業遺産学会　2021年度特別会計決算　（単位：円）

	2020年度末	2021年度末	備考
事務所移転費積立金	1,663,814	1,663,814	積立停止
特別費	744,000	808,000	2019年度一般会計への貸付金320,000円のうち、本年度64,000円一般会計より返済
国際会議積立金	707,322	707,322	積立停止
40周年記念事業寄付金	167,184	167,184	
セルロイド産業文化基金	510,000	810,000	
預金利息	0	28	
（合計）	3,792,320	4,156,348	

*総会での報告は例年通り年度末残高のみ

【内　訳】

特別会計(その1)　事務所移転費積立金		
繰越	1,663,814	
積立	0	
残高	**1,663,814**	
特別会計(その２)　特別費		
繰越	744,000	
一般会計よりの返済金	64,000	※2025年度まで毎年64,000円を一般会計より返済2回目（合計320,000円）
残高	**808,000**	
特別会計(その３)　国際会議積立金		
繰越	707,322	
積立	0	
残高	**707,322**	
特別会計(その４)　40周年記念事業寄付金		
繰越	167,184	
積立	0	
残高	**167,184**	
特別会計(その５)　セルロイド産業文化基金		
繰越	510,000	
基金	300,000	※2021年度分
支払い助成金	0	
残高	**810,000**	

2022 年（令和 4 年）5 月 31 日

監 査 報 告 書

産業遺産学会
会長　横山悦生 殿

産業遺産学会

監査 後藤 克伯

監査 高木翔子

私たち監査は、2022 年度（令和 4 年度：以降西暦表記のみとする）総会承認後から執行される産業遺産学会規約集に基づき、練習の意味も含めて規約・規定案である産業遺産学会規約第 14 条５．１と２及び産業遺産学会財務経理規定第 38 条に基づき、産業遺産学会の 2021 年度（2021 年４月１日から 2022 年３月 31 日まで）の業務並びに財産の状況を監査した結果を下記の通りご報告申し上げます。

記

１．監査の方法

2021 年４月から事務委託をお願いしている株式会社共立（営業部）斎藤様と田中様立会いのもと、産業遺産学会から監査役の後藤・高木、及びオブザーバーとして尾崎理事にて、2022 年５月 30 日と 31 日の両日、以下の規約、規定案の項目で監査を実施した。

（ア）学会規約第７章「資産及び会計」の運用状況の確認。

（イ）財務経理規定第２章「勘定科目」第３章「出納」第５章「収支決算」第６章「物品」第８章「決算」の運営状況の確認。

（ウ）会費規定に基づく会費納入管理の状況確認。

（エ）名簿管理規定（案）による会員名簿の最新版管理状況。

（オ）業務規定による決済状況の確認。

２．監査の結果

（ア）資産および会計の運用状況確認

単位：円

			2020 年度	2021 年度		
			期末	期首残高		期末残高
			決算内容	（通帳上）	前経理担当理事指示による締後処理による計算上金額	（通帳上）

一般会計	ゆうちょ銀行	当座貯金		2,460,337	0	710,840
	三菱 UFJ 銀行	普通貯金		2,084,951	599,272	685,122
	小口現金			680	680	47,723
	小計		668,888	4,545,968	599,952	1,443,685
特別会計	みずほ銀行	普通貯金	3,792,320	0	3,561,136	4,156,348
合計			4,461,208	4,545,968	4,161,088 （C）	5,600,033 （B）

2021 年度	収入	1,909,007	（D）
	支出	∆1,459,090	（E）
期末残高見込み	（C）＋（D）＋（E）	4,611,005	（A）

以上

①本来は上記表において（A）と（B）が同値で有る必要があるが、989.028 円の差額が生じた。

②2021 年度期首と 2021 年度期末の実残高は、監査立会いのもと確認済である。2021 年 4 月から事務委託をお願いしている株式会社共立様［以降敬称略し（共立）と表記］は、それ以前の事務委託会社から振込を受けただけであり、疑う余地はないと考える。

③2020 年度決算の数字と 2021 年度期首会計が、締め後処理の後でも違っており、2020 年度以前からの差異があったものと考えられる。また、2020 年度締め後、前経理担当理事の指示により、振替・未払い金・等の処理がされており、このあたりが差額の原因と考えられるが、今となっては確認のしようがない。

④現在、決算は単式簿記で実施しており、現金発生主義で作成する必要がある。このため、締め後処理を行わないことを指摘事項とした。

⑤2021 年度入金の 2022 年度会費が 90,000 円あり。今回は年会費の項目で計上している。また、従来、単式簿記形式にかかわらず前年度入金の当年度会費は前受け金として処理してきたが、実際の現金の動きと合わなくなるので、2021 年度会費の 2020 年度入金分 324,000 円で記載することとした。

（イ）会費規定に基づく会費納入管理の状況確認。

①銀行への入金状況確認⇒問題なし

（ウ）名簿管理規定（案）による会員名簿の最新版管理状況。

①Access で管理されており、必要な情報をいつでも Excel で出力できる状態にあった。

②退会者の管理や、昨年度（2020 年度）と今年度（2021 年度）の会費の管理もできており、現時点では大きな問題はないと考える。残念ながら、時間の関係で細かな確認ができなかった。しかし、来年度（2022 年度）は本規定が本格稼働すると考えられるので、十分確認したい。

（エ） 業務規定による決済状況の確認

①時間の関係で、実施できなかった。

（オ）その他

①入出金の明細は非常によく取れており、内容の確認がやりやすかった。

②会誌のバックナンバーの販売管理が 7 月 21 日からしか実施されていない。このため、今後バックナンバーの管理元帳の作成が必要。（同　入金額、入金銀行、新入会での無料発送、等を明記のこと）

3．監査意見

（ア）次年度（2022 年度）から銀行分の残高証明の発行（郵貯分は当座なので対象外）を（共立）と打ち合わせ、実施頂けるようお願いした。

（イ）当座貯金（ゆうちょ銀行）は利子がつかないため、逐次普通口座に振替を行う必要あり。振替を具体的にどのように行うか基準が必要であると考える。(例えば、「定期的に三ヶ月に一回普通口座に振替」とか「残高が 50,000 円に達したら普通口座に振替」であるとか、が考えられる)

（ウ）次年度（2022 年度）は、新たに設けられる規約に基づいて、業務監査が必要であることから監査役もオブザーバーとして理事会に出席する。

（エ）会報バックナンバーにおいて、156 号（共立）［(事務局)］に在庫なし→保存用として、お持ちの方で寄贈頂ける方や複数冊お持ちの方があれば、是非とも寄贈をお願いしたい。

（オ）2021 年度の決算書は、上記監査の結果通り期首残高を 4 月に入って前経理担当理事が（共立）に指示して残高操作を行っていた。現金発生主義に照らすと当然差異が出るが、操作の根拠等は今となっては分からない事と、既に昨年度（2020 年度）の決算書は総会で承認を得ている。よって 2021 年度決算書は（共立）が既に作成しているものを用いて今年（2022 年）の総会資料とするしかないと考える。但し、2021 年度期末残高は今回確認をしている事と次年度（2022 年度）からは残高証明も発行してもらうこととなるので、リセットの意味も含めて新たな規約に基づき運営するのがベストであると考える。

以上

第 3 号議案：2022 度事業計画案（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

総務

■改定規定の安定化をはかる

産業遺産学会の財務健全化と、学会活動のスムーズな運営のため規定を大きく改訂した。今年度は規定を軌道に乗せるため、業務ごとに指導とアドバイスを行い、規定の安定運用をはかる。また規定の有効性を検証し、改訂すべきは改訂する。

■財政健全化

業務規定、財務規定に基づき収入、支出の勘定科目と細目を明確にし、規定の権限に沿って予算を管理し、財務管理の責任を明確にする。また監査を確実に行い、財務のみならず業務監査も行えるよう指導する。

■理事会

会長	横山悦生
理事長	小西伸彦
総務・財務	尾﨑徹也
企画	山田大隆、岡崎直司
編集	市川浩、時里奉明
組織	中山嘉彦
ＷＥＢ・広報	橋本英樹（広報）、秋葉健（システム）、石田真弥
国際	市原猛志
研究	時里奉明、石田真弥、市川浩、中山嘉彦
特任理事	伊東隆（国際）
監　　査	後藤充伯、高木翔子

※山田大隆理事を新任。伊東孝特任理事を国際に異動。下線は責任者。

企画

■2022 年度（第 46 回）総会

新型コロナウィルス感染拡大のため、対面式総会と産業遺産現地調査を中止し、書面総会とする。研究発表会は 7 月 30 日（土）リモートで開催する。24 頁を参照。

■2022 年度推薦産業遺産

第 121 号「芳谷炭坑浄水場跡」（佐賀県）

明治末期における産業用途の現存浄水場遺構（煉瓦造）としては、国内最大級である点を高く評価し、産業遺産学会推薦産業遺産に認定する。

第 122 号「芳谷炭坑第 3 坑跡」（佐賀県）

明治後期から大正年間にかけて、佐賀県下最大の出炭量を誇った芳谷炭坑跡に残る唯一の坑口で、保存状態もよい点を高く評価し、産業遺産学会推薦産業遺産に認定する。

第 123 号「持倉鉱山からみ煉瓦遺構」（新潟県）

銅鉱滓によるからみ煉瓦建造物は日本各地に見られるが、小規模なものが多い。この点、持倉鉱山は大規模であり、からみ煉瓦建造物を代表するものであることを高く評価し、産業遺産学会推薦産業遺産に認定する。

第 124 号「足尾銅山本山動力所コンプレッサーおよび復原建屋」（栃木県）

西洋の採鉱技術が日本に伝わり、機械掘りが主流になっていく時代の幕開けを示す貴重な遺産であるとともに、建屋復原の経緯を高く評価し、産業遺産学会推薦産業遺産に認定する。

■第３回セルロイド産業文化基金

研究期間：2022 年６月１日～2024 年５月 31 日

募集内容：（A）セルロイド産業文化助成

・１件につき最大 20 万円、２件まで助成する。

・産業遺産学会会員あるいは関連学会（後述）会員を対象とする。

・研究完結後は研究発表会で発表していただく。また会誌に研究成果を投稿していただく。その場合は査読論文を希望するが、調査報告でも可とする。

（B）セルロイド若手研究助成

・１件につき最大 15 万円、３件まで助成する。

・応募時に 40 歳未満の産業遺産学会会員あるいは関連学会会員を対象とする。

・研究完結後に会誌に研究成果を投稿していただく。査読論文を希望するが、調査報告でも可とする。研究発表会での発表を勧める。

募集期間：2022 年３月１日～2022 年４月 30 日

選考委員：石田真弥、市川浩、時里奉明、中山嘉彦（研究理事）

そ の 他：・第３回から隔年公募とする。

・関連学会会員の応募を可とする。

□第３回セルロイド産業文化基金助成内容

平澤宙之・西澤岳夫

研究テーマ：旧雄別炭礦病院の遺構調査による図面作成、および劣化状況の把握

助成額：15 万円

阪東峻一

研究テーマ：戦間期における事務所ビルの部材保存の経緯と歴史―東京中心部の事例を中心に―

助成額：15 万円

■2022 年度産業遺産学会全国大会（久喜鉱山）

2022年11月の土・日曜日２日間、島根県邑智郡邑南町の久喜鉱山で開催。新型コロナウィルスの感染状況を見ながら、開催の可否等は７月末、ニューズレター、学会ホームページ、メールマガジンで発表。25頁を参照。

■佐渡産業遺産現地調査会

2022 年 11 月 21 日（月）～23 日（水）で開催予定。定員 8 名（最小催行人員 4 名）。
26 頁を参照。

■調査依頼

2021 年度に引き続き、多度津町教育委員会・JR 四国から、JR 四国多度津工場の現地調査調査と報告書作成の依頼。

編集

■会誌通巻 160 号

今後の会誌のあり方については、今回の総会に会誌名の変更を提案している。その採否の如何を問わず、従来通り、具体的な産業遺産(建築遺産、技術記念物、産業に関連した文化・記録遺産など)に関する［論文］、［研究ノート］、［調査報告］、［海外情報］などの原稿募集・掲載に積極的に努めつつ、今期に引き続き学術雑誌としてのさらなるグレード・アップを目指す。また、会員から提案があれば、［特集］を組むことも検討する。その上で、今期は特殊な事情から刊行が遅れたが、これをもとの 3 月刊行にもどすことを目指す。第 160 号に掲載を希望するものは、その原稿を 2022 年 11 月 21 日までに編集委員会に届けることとする。あたらしい「投稿規定」は第 159 号に掲載した。

組織

■2022 年度は方針として以下の 4 点を挙げる。

（1）評議員の充実

（2）評議員会の再構築（総会実施等）

（3）諸課題

① 各評議員間の情報発信・共有強化

② 評議員総会時の見学会等同時開催

③ 「ニューズレター」の発行

（4）NL（ニューズレター）の発行

（1）は 2021 年度と同様に増員を図りたい。

（2）も 2021 年度と同様に注力したいが、コロナ禍等もあり、見通しをたてにくい状況である。

（3）①②は 2021 年度と同様に注力したい。

③は発行主体が編集部門から組織部門に変更されることになった。

広報部門（HP･メルマガ等）と連携を図りながら、学会内記録をさらに充実させる。

なお、「短信」を「ニューズレター」に掲載することになった。

評議員を含む全会員からの投稿をさらにお願いするとともに、記述内容の充実を図りたい。

（4）NL の編集と発刊は組織理事の担当とする。

2021 年度の発刊を見合わせた 24 号も 2022 年度に発刊する。

■評議員氏名（2022 年 6 月 10 日現在）

北海道　佐々木貴文
宮城県　斎藤広通
群馬県　大木利治　長谷川福次　吉田　豊
埼玉県　玉井幹司
千葉県　石本祐吉
東京都　多田統一　平原国男　渡辺鉄雄
神奈川県　志澤政勝　沼口　博　半田昌之
福井県　奥山秀範
長野県　井上忠恵　山田俊明
静岡県　永井唐九郎
愛知県　朝井佐智子　石田正治　岩井章真　加藤敬之　烏田直哉　宮崎信二　山田　貢
岐阜県　田口憲一
京都府　二階堂達郎　三藤利雄
大阪府　岡田昌彰
兵庫県　川島智生　藤本雅之　堀田和弘　三宅宏司
岡山県　一幡公平　武部将治　樋口輝久　松尾和彦
広島県　水田　丞
愛媛県　西原　寛
福岡県　池森　寛　大石道義　木元富夫
熊本県　磯田桂史　幸田亮一　松本晉一
鹿児島県　渡辺芳郎

ＷＥＢ・広報

■メールマガジンの配信の継続

・2021 年度にスタートしたメールマガジンの配信を継続し、会員各位への情報提供と会員サービスの拡充を図る。
・2021 年度に引き続き、会員からの情報、関係団体や博物館等からの情報を会員に配信する。

■ホームページの更新

・ホームページでは活動の記録を中心に、ホームページの更新を行う。
・使いやすいホームページを目指し、ホームページの修正を継続する。

■サーバのデータ整理

・本学会のメールにスパムメールの着信増大がみられるため、メールサーバについてはオフラインでのメールデータの保存を行った上で、アドレスの整理を行う。
・ホームページサーバについても、データの整理とオフライン保存を行う。

・国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP）を活用し、今後のホームページに関わる情報を保存する。

■ホームページの URL の変更

・本学会のホームページの URL が、学会名が変更になってからも sangyo-koukogaku.net のままであったが、これを sangyo-isan.net に 2022 年 6 月に変更する。
なお、移行期間として 2023 年 6 月頃までは従来 sangyo-koukogaku.net を残す。

・本学会のホームページの URL の変更に伴い、順次、学会の各種メールアドレスを変更する。メールマガジンの配信元のメールアドレスも変更する。

・移行に関わる作業は 2023 年 6 月までの期間に順次実施する。変更時には適宜メールマガジンを通じて会員に周知する。

■ホームページへのサーバ証明書の導入

・本学会のホームページに SSL/TSL サーバ証明書を導入し、ホームページのセキュリティー面での信頼性を向上させる。（URL が http:ではじまるものから、https:ではじまるものに変更する）

国際

■引き続き、TICCIH（国際産業遺産保存委員会）やICOMOS（国際記念物会議）、ERIH（ヨーロッパ産業遺産ルート）、ANIH（アジア産業遺産ネットワーク）との連携を強化する。

■ICOHTEC（International Committee for the History of Technology：国際技術史委員会）の2022年第49回定例会議は、チェコ・オストラヴァにて９月24～25日と10月15～16日の２期間に分け、オンラインミーティング。

■TICCIH第18回本会議は2022年８月28日～９月４日にかけてカナダ・モントリオールにて現地開催を計画。日本より市原理事、伊東特任理事等が参加予定。

■世界遺産委員会含め多くの会議がオンライン開催。全ての情報把握・配信は困難、海外情報はできるだけ理事・会員と共有いたしたく、担当如何にかかわらず多くの会員からの情報提供をお願いする。

第 4 号議案：2022 年度予算案（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

収入の部

項目	予算	備考
2021年度繰越金	1,443,685	
年会費	1,380,000	一般会員、学生会員、賛助会員
前受け年会費		
学会誌等売上	54,000	学会誌バックナンバー売上等2021年度実績による
受託活動収入	0	
会費編集諸収入[掲載料]	12,000	2021年度実績による
雑収入	279,007	利子、総会予稿集等代金、銘板作成費
収入合計	3,168,692	

支出の部

〔支出〕	予算	備考
会誌編集・印刷費	280,000	
会誌発送費	40,000	
総会関係費	144,000	総会資料、送料、総会研究発表会予稿集
全国大会関係費	120,000	全国大会補助、佐渡見学会費用
ホームページ維持費	60,000	
学会活動補助金	100,000	調査費、
事務費	30,000	株式会社共立
事務委託費	550,000	株式会社共立
推薦産業遺産関係	40,000	
NL関係費	86,000	NL印刷費、送料
国際会議積立	0	
監査費用	100,000	決算監査(4月)
特別会計特別費へ返済		
予備費	1,618,692	
次年度繰越金	0	
支出合計	3,168,692	

産業遺産学会　2022年度特別会計案

	2021年度末	備考
事務所移転費積立金	1,663,814	積立停止
特別費	808,000	
国際会議積立金	707,322	積立停止
40周年記念事業寄付金	167,184	
セルロイド産業文化基金	810,000	
預金利息	28	
（合計）	4,156,348	

第５号議案：学会規定等案

別冊「学会規定等の制定案」をご参照ください。

第６号議案：学会誌名称変更案

■議案：学会誌名『産業考古学』を『産業遺産学会誌』に変更する

■理由：2020 年（令和２）年４月、本学会はその名称を「産業考古学会」から「産業遺産学会」に変更しました。学会名と会誌名の乖離を埋めるため、爾来３年目となる 2023（令和５）年度に発行する学会誌から、本学会が編集・発行する学術誌であることが一目でわかるように、その名称を『産業遺産学会誌』という学会名に沿った正確な表記にあらためます。理事会では 2020（令和２）年度から、脆弱であった学会の基盤強化に着手し、まず学会事務局を移転しました。つぎに会計の健全化と見える化、会員名簿の整備、改定の遅れていた規約の見直し、整備されていなかった規定の新設に努めました。それにより活動基盤の体質を大幅に改善することができました。
さらに、次の大きな課題として、学会誌の見直しとニューズレターとの整合性をより効率的なものにあらためました。とくに学会誌の質向上に重点をおき、「論文」審査を厳重にし、試行として［特集］を設け、［論文］［研究ノート］［調査報告］［資料］の査読体制と投稿規定を見直し、第 159 号を先行して新編集方針に基づく第１号としました。その上で、学会名「産業遺産学会」にふさわしい論攷を広く求めること、本誌を読まれる方々により水準の高い論攷を提供する意味を込め、また学会名に沿った正確な名称とするため学会誌名を『産業考古学』から『産業遺産学会誌』にあらためるというものです。

産業遺産学会評議員会規定

（目　的）

第１条　産業遺産学会の評議員会の運営に関し必要な事項について規定し、その適法かつ円滑適切な運営を図ることを目的とする。

（評議員会の構成）

第２条　評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

２　理事は、求めに応じ評議員会に出席し、意見を述べるものとする。

（評議員会の種類）

第３条　評議員会は、定例評議員会及び臨時評議員会の２種とする。

２　定時評議員会は、年１回毎事業年度の５月に開催するものとし、組織理事が招集する。

３　臨時評議員会は、必要に応じていつでも開催できるものとし、組織理事がこれを招集する。

（議　長）

第４条　評議員会の議長は、組織理事が行う。組織理事が欠席の場合は評議員会において、出席した評議員の中からその都度互選する。

（評議員会の運営）

第５条　評議員会は、議決に加わることができる評議員の過半数の出席がなければ開催することができない。

２　議長は、評議員会の開会に際し、出席者数を確認しなければならない。

３　議長は、評議員会の秩序を維持し、議事を整理する。

（決　議）

第６条　評議員会の決議は、議決に加わることができる評議員の過半数が出席し、出席した評議員の過半数をもって決する。

（評議員の定数）

第７条　定数は若干名とし、特に上限を定めない。

（評議員の選出等）

第８条　会員より推薦をうけ、理事会の承認により選出する。

（評議員の職務）

第 9 条　産業遺産に関する研究・調査・保存活動を積極的に行う。

2　評議員会を構成し、この規約の定め及び評議員会の議決に基づき、本会の業務を執行する。

3　理事の求めに応じ助言を行う事が出来る。

（評議員の任期等）

第 10 条　任期は特に定めない。

（評議員の解任）

第 11 条　次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その評議員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

（1）心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。

（2）職務上の義務違反その他評議員としてふさわしくない行為があったとき。

（報酬等）

第 12 条　報酬は特に定めない。

（改　廃）

第 13 条　この規則の改廃は、評議員会の決議による。

附　則

1　この規定は、2022 年 7 月 1 日より施行する。

産業遺産学会　推薦産業遺産規定

（趣　旨）

第１条　この規程は、産業遺産学会が認定する推薦産業遺産の目的および認定等について定めるものとする。

（定　義）

第２条　この規程における「産業遺産」とは、産業の形成と発展に重要な役割を果たしてきた道具や道具、機械、機器、装置、容器、施設、建築物、土木構造物、それらの図面、写真など、今日に残されているものをいう。

（目　的）

第３条　産業遺産の存在を広く啓蒙し、その保存と活用に寄与することを目的に推薦産業遺産を認定する。

（対　象）

第４条　国あるいは地方自治体による文化財指定を受けていない、価値ある産業遺産を対象とする。

２　申請の対象は、申請時点までに会誌あるいはニューズレターで紹介された産業遺産を対象とする。

（募　集）

第５条　指定期間に所定の推薦産業遺産申請用紙を提出する。

２　産業遺産学会会員は等しく申請できる。

３　申請者は、当該産業遺産の管理者あるいは所有者に認定の承諾を取り付けおかなければならない。

（認　定）

第６条　申請のあった推薦産業遺産は、理事会において審議して認定を決定する。

２　理事会では、認定、情報照会、差戻し、不認定を判断する。

３　理事会での承認日を、認定日に当てる。

４　推薦産業遺産は公衆の安全、健康及び福利を最優先に考慮したものを対象とし、以下の物件は対象としない。

（１）裁判等係争の対象となっている物件

（２）見学にあたり充分な安全が担保されない物件

（発　表）

第７条　推薦産業遺産の発表は、次の手順とする。

（１）認定の結果は、企画理事から申請者に通知する

（２）申請者は、産業遺産の所有者あるいは管理者に通知する

（３）会誌、ニューズレター、学会ホームページ、学会メールマガジンで発表する

（認定書）

第８条　認定書は、申請者から産業遺産の所有者あるいは管理者に伝達する。

（銘　鈑）

第９条　銘鈑は、希望者に有償配布する。

２　銘鈑は受注生産とし、完成後に申請者、産業遺産の管理者あるいは所有者に製造元から直送する。

（取り消し）

第 10 条　推薦産業遺産に認定された産業遺産が解体等により消滅した場合も、認定は取り消さない。

２　産業遺産の管理者あるいは所有者から取り消しの申請があった場合は、この限りではない。

附　則

この規定は、2022 年 7 月 1 日より施行する。

2022 年度（第 46 回）産業遺産学会総会研究発表会のおしらせ

■開催日

7 月 30 日（土）9:00～12:10、リモート（Zoom）開催

■発表

最大 5 題（発表 25 分、質疑応答・場面転換 10 分）

■募集

区分：研究発表、産業遺産紹介

対象：産業考古学、産業遺産研究に関する内容とします

採用：要旨を審査のうえ決定します

募集規定：つぎの 6 項目を明記の上ご応募ください

①区分　②表題　③執筆者と報告者全員の氏名・所属

④キーワード　⑤要旨 800 字程度

⑥連絡先（E-mail アドレス、住所、電話番号）

申込み先：事務局あてにお願いします

申込み方法：E-mail の場合　falbo524@gmail.com

郵送の場合　〒719-1156 岡山県総社市門田 213　小西伸彦あて

申込み締切：6 月 15 日（木）必着

採否結果：6 月 20 日（月）までに連絡します

予稿集：指定テンプレートで 4 頁

予稿集原稿締切：7 月 9 日（土）必着

■事務局

事務局長　横山悦生

事務局　小西伸彦

〒719-1156 岡山県総社市門田 213

E-mail　falbo524@gmail.com

電話　080-3886-7030

産業遺産学会 2022 年度全国大会（久喜鉱山）のおしらせ

■日程
11 月 5 日（土）久喜鉱山紹介、研究発表会、情報交換会
11 月 6 日（日）産業遺産現地調査会
■会場
研究発表会：出羽公民館／島根県邑智郡邑南町山田 47
情報交換会：いこいの村しまね／島根県邑智郡邑南町高水 246
産業遺産現地調査会：久喜鉱山、邑南町郷土館

■参加費（保険代込、研究発表会は予稿集 1 冊、現地調査会は昼食代）

	一般会員	学生会員	会員以外
研究発表会	2,000円	1,000円	3,000円
情報交換会	5,000円	4,000円	6,000円
現地調査会	5,000円	4,000円	6,000円

■開催の可否等
8 月 15 日（金）学会ホームページで発表
■申込み
・8 月 15 日（金）から 11 月 20 日（木）までは払込票でお申込みください
・11 月 21 日（金）以降のお申込み等は大会事務局までメールまたは郵便でご連絡ください
参加費等の支払いは総会会場でお願いします
・参加費振込をもって参加とし、振込後の参加費は返金しません。後日予稿集 1 部を送ります
・保険申請に必要な項目ですので、払込票には全欄ご記入ください

■久喜鉱山

久喜鉱山は、石見銀山遺跡から広島市に向かっておよそ 35km の島根県中有南部、邑智郡邑南町で操業した金銀鉱山です。建久年間（1190～1199 年）あるいは弘安年間（1278～1288 年）創業説をもち、地元では鎌倉時代初期の開鉱と語り継がれてきました。16 世紀中ごろには毛利家が銀山開発に力を入れ、1600（慶長 5 ）年の関ケ原の戦後は石見銀山とともに徳川家の直轄地となったことで第一次繁栄期を迎えました。1888（明治 21）年からは堀家が経営し、借区の拡大、大規模水抜坑の掘削、製錬事業の開始、水力発電所の設置などで第二次繁栄期を築き、1956（昭和 31）年に閉山しました。

島根県邑南町教育委員会は 2010（平成 22）年に遺構の本格調査に着手し、1,536 の採掘跡やスラグ集積地、明治時代の製錬所跡などを確認しました。遺構は東西 3 km、 2 km、面積約 4.4km^2 におよびます。

文化庁は 2021（令和 3 ）年 6 月 18 日、久喜銀山遺跡を「中国山地に位置する、銀を含んだ鉛鉱石」方鉛鉱等）を産出した戦国時代から近代にかけての鉱山遺跡。戦国から江戸初期と推定される露頭掘跡、鉱石を加熱する焼竈跡、製錬炉跡、精錬所跡などがある。数少ない方鉛鉱を産出する鉱山の調査例として貴重（中国山地に位置する、銀を含んだ鉛鉱を産出した戦国時代から近代にかけての鉱山遺跡）」として史跡に指定しました。

佐渡産業遺産現地調査会のおしらせ

2021 年度全国大会は新潟県佐渡市で予定しが、新型コロナ感染拡大を懸念して現地での開催を見合わせ、学会誌 159 号で「日本の鉱山遺産の今－世界遺産登録をめざす佐渡に寄せて－」と題する特集を設け、「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」の世界遺産登録を応援することにしました。2022 年度は規模を縮小し、最小催行人員を設定したう上で産業遺産現地調査を実施します。

■日程

2022 年 11 月 21 日（月）～23 日（水・祝）

■定員

８名（最小催行人員 4 名）

■行程

11 月 21 日（月）

12:30 新潟港集合～12:55 発佐渡汽船ジェットフォイルで佐渡へ

14:02 両津港着～佐渡島内視察～佐渡島内泊

11 月 22 日（火）

終日佐渡島内視察～佐渡島内泊

11 月 23 日（水・祝）

午後まで佐渡島内視察～15:30 両津港発佐渡汽船ジェットフォイルで新潟へ

16:37 新潟港着・解散

■参加費

50,000 円（予定、ジェットフォイル・宿泊・食事 6 食・保険・懇親会費を含む）

■担当

伊東孝、秋葉健

以上、会員の敬称は省略した